

(21) 鉄の酸硫化物液相の熱力学

名古屋工業大学・木 昭二, 井口義章

I. 緒言：著者らは以前広範囲の S ポテンシャルとも H₂-H₂S 混合ガスによるペレット状や微密板状のウスタイト試料の還元を研究した。^{1~3)} その結果、ペレットの気孔率が小さい場合には鉄、ウスタイト、鉄の酸硫化物液相の 3 相平衡の S ポテンシャル以下の条件でも還元鉄とウスタイト界面にこの低融点の液相が少量準安定に生成することによって極端に還元が遅くなることを明らかにした。本研究ではこの還元遅滞の原因を検討するにあたり、まずこの液相中成分の活量を求めることにした。

II. 実験方法：純鉄ルツボ中 Fe-O-S 系溶液と H₂-H₂O-H₂S 混合ガス間の化学反応の平衡を 1000, 1100, 1200°C で測定した。ガス循環法によってガス-液相間反応の平衡を達成させ、その気相中の P_{O₂} (atm) は次の酸素濃淡電池の平衡起電力 E を測定することによって式(2)より算出する。

$$\text{Pt, air} \mid \text{ZrO}_2 (+\text{CaO}) \mid \text{H}_2-\text{H}_2\text{O}-\text{H}_2\text{S}, \text{Pt} \quad (1), \quad E(\text{mV}) = 0.049605 T \log(P_{\text{O}_2}/0.209) \quad (2)$$

また気相中の P_{S₂} は反応系外に設けた恒温(約 80°C)のガス溜め中の H₂S 量を化学分析することによって得た。液相中各成分濃度はその急冷試料中の全鉄、全 S 濃度を化学分析することによって求めた。液相中酸素や硫黄成分の活量基準にするため Fe/FeO(s) 平衡や Fe/FeS(l) 平衡も測定した。

III. 実験結果と考察：1) Fig. 1 に示した各条件でのそれらの平衡値に及ぼすガス循環流量の影響を検討した。この結果から全測定とも

300~400 cc/min で行った。2) ガス-液相間反応の平衡到達のための保持時間は予備実験から 6 h とした。3) 凝固試料中には冷却時に析出するもの以外の金属鉄粒子が認められた。従って Ar 中溶解での液相中各成分組成とともに補正した。その結果を Fig. 2 に示す。4) Fig. 2

より液相は Fe, Fe²⁺, Fe³⁺, O²⁻, S²⁻ から構成されていると思われる。また Fe, O, S 3 成分系の Gibbs-Duhem 式⁴⁾ で $\alpha_{\text{Fe}}=1$ の条件下なので $N_{\text{O}} d \ln \alpha_{\text{O}} + N_{\text{S}} d \ln \alpha_{\text{S}} = 0$ (3), すなわち $N'_{\text{O}} = N_{\text{O}} / (N_{\text{O}} + N_{\text{S}})$, $N'_{\text{S}} = N_{\text{S}} / (N_{\text{O}} + N_{\text{S}})$

を酸素と硫黄の濃度とし, $\alpha_{\text{O}} = Y'_{\text{O}} N'_{\text{O}}$, $\alpha_{\text{S}} = Y'_{\text{S}} N'_{\text{S}}$ とおけば、式(3)は $N'_{\text{O}} d \ln Y'_{\text{O}} + N'_{\text{S}} d \ln Y'_{\text{S}} = 0$ (4) となる。1100°C で実測して $\alpha_{\text{O}}, \alpha_{\text{S}}$ に対する $N'_{\text{O}}, N'_{\text{S}}$ の関係を Fig. 3 に示す。実測の α_{O} から α 関数, $\alpha_{\text{O}} = \ln Y'_{\text{O}} / N'_{\text{S}}^2$ を用いて式(4)の積分を行って $\alpha_{\text{S}}^{\text{c}}$ を求めた。同様にして $\alpha_{\text{S}}^{\text{c}}$ を求めた。実測 α_{S} のばらつきが大きいなどの理由から実測 α_{O} と $\alpha_{\text{S}}^{\text{c}}$ を採用するのが妥当と考えられる。これらの結果から熱力学的諸量を算出した。

文献: 1) 木ら: 金属誌, 48(1984), 383, 2) 木ら: Trans. ISIJ, 24 (1984), 143, 3) 木ら: 鉄と鋼, 71(1985), 672, 4) Trans. AIME, 194(1952), 1307

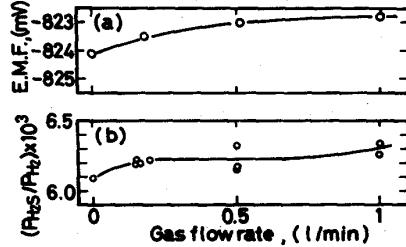


Fig. 1 Effect of gas flow rate on the equilibrium values. (a) E.M.F. in equilibrium with iron and wustite at 1200 °C. (b) P_{H₂S}/P_{H₂} in equilibrium with iron and iron sulphide at 1028 °C.

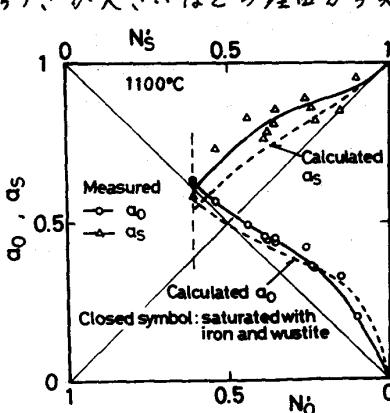
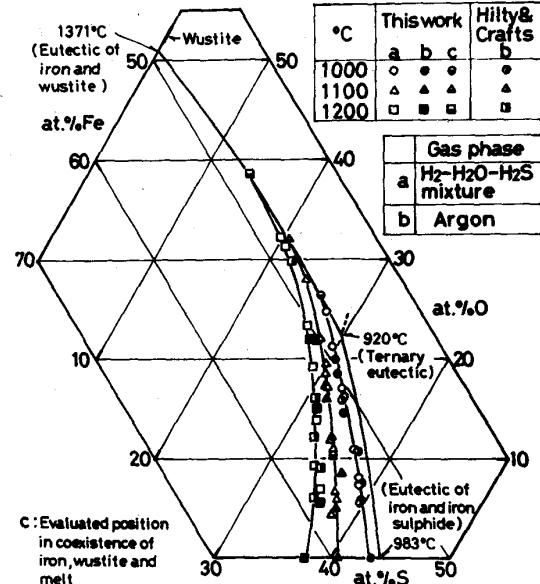


Fig. 3 Activities of oxygen and sulphur in Fe-O-S melts.

Fig. 2 Composition of Fe-O-S melts saturated with iron, along with the results by Hilty and Crafts⁴⁾.